

## 大宰府アカデミー・令和編 第23講 令和7年2月19日(水)質問及び回答(Q&A)

### 「大宰府史跡の研究史」

講師・回答：杉原 敏之先生(福岡県教育庁教育総務部文化財保護課参事兼課長技術補佐)

この度は大宰府アカデミー・令和編を受講いただき誠にありがとうございます。  
皆様からいただきましたご質問につきまして回答いたします。  
なお、ご質問につきましては、抜粋して掲載しておりますことをご了承ください。

Q/ 今回の講座の冒頭で、「大宰府というものを考えるときに、これだけ“人”が関わるエピソードが多くある遺跡は全国にも例がないのではないか」とのお話がありました。なぜ「大宰府」はこれほど人を惹きつけるのでしょうか。他の史跡と何が違うのでしょうか。

#### A/ 回答

大宰府は、我が国の対外交渉の拠点に成立した、東アジアとの交流の歴史を物語る文化遺産であり、この地域に暮らす人びとの誇りとして存在し続けているのだと思います。特に水城、大野城、基肄城など、東アジアの歴史文化を視覚的に体感できる空間も多くの人びとを惹きつける要素だと思われます。このように我が国の歴史上類稀な遺跡でありながら、日常的に認識できる環境と相俟って、各時代の大宰府をめぐる様々な出来事の中で、その都度人びとの関心事となり、調査研究、保存、社会情勢など、様々な形で取りあげられてきたのだと思われます。その意味において、大宰府は時代を越えて生き続けてきた稀有な遺跡だと言えます。

Q/ 「東アジアの都城」としての視点からの、他地域(琉球弧、朝鮮半島、中国など)研究者との共同研究、あるいは人材交流のようなことは行われていないのでしょうか。研究発表会のようなものはないのでしょうか。

#### A/ 回答

「東アジアの都城」の視点からの研究は、全国の研究者ごと展開しているのが現状と思われます。本アカデミーで講義された井上信正先生は、都城研究のプロジェクト

で大宰府都城の研究を進めてこられました。様々なテーマの研究プロジェクトの中で大宰府が取り上げられ、人的交流も展開しています。

大宰府は、律令国家の要衝におかれた機関であり、都城制、対外交流、境界領域など、東アジア史の中で総合的に研究できる学問的枠組を持つものとしても重要です。ただし、それは壮大なテーマであり、研究総体として実現できていないのが現状です。将来、九州を拠点に実現すべき課題と認識しています。

※ ご質問ありがとうございました。